



平泉を主会場に「全史協大会」開催

近藤誠一氏（元文化庁長官）の講演も

史跡などを有する自治体が加盟する「全国史跡整備市町村協議会」（全史協）の第57回大会は10月5～7日、平泉町を主会場に開かれ、文化財の保存と活用、史跡などの整備を推進していくことを確認しました。

全国各地から約300人が参加。5日に平泉小学校体育館で開会式と総会を行い、史跡などの整備活用事業の拡充や埋蔵文化財発掘調査の充実などについて、国の令和5年度予算で特段の措置をすることな



どを求める大会決議を採択しました。

平泉文化遺産センター名誉館長で、元文化庁長官の近藤誠一氏による講演会も開かれ、関係者や町民などが聴講。近藤氏は「ふるさとの魅力一蓄積された人文知」をテーマに語り、地球温暖化など人類が直面する問題を挙げ、解決には英知を総動員する「人文知」が必要と説きました。

6～7日には、県内の史跡の視察が行われました。全史協大会は、平成23年に町内で開催が予定されていたものの東日本大震災の影響で中止となり、昨年は新型コロナウイルス感染症のため延期されました。



手刈りで秋の実りを体感

ライス・アート稲刈り体験

異なる色の稲で水田に絵や文字を描く「ライス・アート in ひらいずみ」稲刈り体験（農事組合法人アグリ平泉主催）は10月22日、長島地区の圃場で開かれました。

町内外の約100人が「源義経」をテーマにした絵柄の稲を鎌で手刈りし、秋の実りを実感しました。親子で参加した平泉小学校4年の佐藤蒼空さん（7区）は「稲刈りは初めてで難しかったけれど楽しかった。新米を食べるのが楽しみ」と笑顔を見せました。



プログラミングを極める

「スパルタキャンプ」今年度最後の第6期へ

町が株式会社長島製作所と連携して展開する一般・高校生向けプログラミング講座「スパルタキャンプ in 平泉町」は11月、今年度最後の講座となる第6期を迎えます。全国各地からの受講者が延べ100人に迫っています。

第5期（Laravel編）を受講した盛岡市の八重樫美菜さんは、IT分野の仕事に携わりたいとプログラミングを学び「日々の学習の積み重ねで成長を実感している。全国各地から集まった受講者から刺激をもらっている」と語ります。



男女共同参画やジェンダーに理解深める

町が「エピカ」で講座開催

男女共同参画やジェンダーなどへの理解を深めようと、町は9月29日、県男女共同参画センターによる出前講座を町学習交流施設「エピカ」で開催しました。

町男女共同参画推進委員や平泉男女共同参画サポーターの会会員ら約20人が受講。同センターの佐藤卓さんが、性の多様性や性的少数者「LGBTQ+」について説明したほか、SDGs（持続可能な開発目標）も踏まえ、政治・経済分野での男女格差など日本の課題も指摘しました。



人と森林が共生する心豊かな社会へ

西行桜の森で「一関地方育樹祭」

令和4年度一関地方育樹祭（一関地方農林業振興協議会など主催）は10月1日、長島地区の西行桜の森で開かれました。人と森林が共生する心豊かな社会の構築を目指し、参加者が植樹しました。

町内などから約30人が参加し、長島小学校6年の千葉苺佳さんと千葉梨桜さんが開会宣言。2人と青木町長らが森の斜面にエドヒガンの苗木を植え、健やかな成長への願いを込めました。

延べ約2,300人が来場しにぎわう

第7回「中尊寺通りホコ天まつり」

第7回中尊寺通りホコ天まつり（平泉商工会主催、町など共催）は10月2日、県道平泉停車場中尊寺線（中尊寺通り）で開かれました。飲食物の出店やステージ発表などが繰り広げられ、延べ約2,300人が来場し活気づきました。

来場した平泉中学校3年の渡利友香さん（2区）と三橋菜奈さん（13区）は「平泉のみんなで地域を盛り上げようとする思いが伝わってきて、にぎやかな雰囲気楽しい」などと語り、催しを満喫しました。



昔の文書、手紙の一端に触れる

12区の親子が「木簡」作りを体験

12区公民館で10月22日、「木簡」作り体験が行われ、親子約20人が昔の生活と歴史の一端に触れました。

木簡は細長く平らに削った木に字を書いたもので、古代の文書伝達に用いられたとされます。鈴木節郎区長が宮城県名取市の孫から手紙として受け取ったことを契機に、同日の講師として作り方を手ほどきしました。

いとこ宛てに作った平泉小学校3年の武蔵真依さんは「木簡が郵送できるのはびっくりした」と話しました。

